

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2019/04/08 ~ 2019/06/07		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587042101	科目番号 / Course code	05870421
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 13731_005		
授業科目名 / Course title	核兵器廃絶へのアプローチ (核兵器廃絶と教育) / Nuclear Weapons Abolition and Education		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	全 炳徳 / Jun Byungdug, 高瀬 毅 / Tuyoshi Takase, 桐谷 多恵子 / Taeko Kiriya, 山口 剛史 / Takeshi Yamaguti, 広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	全 炳徳 / Jun Byungdug		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	全 炳徳 / Jun Byungdug, 高瀬 毅 / Tuyoshi Takase, 桐谷 多恵子 / Taeko Kiriya, 山口 剛史 / Takeshi Yamaguti		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟23 / RoomA-23		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	bdjun_nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	教育学部本館3階、309号室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2324		
担当教員オフィスアワー/Office hours	bdjun@nagasaki-u.ac.jp		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本授業は核の時代における世界の動向を確認する学習活動を行う。特に、教育的な観点から「小学校や中学校での平和教育」をどのように進めれば良いかを深く考え、実践するための模擬授業を行う。		
授業到達目標/Course goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>核時代における世界の動向を確認し、学習ができる。</li> <li>核時代の教育について、自らの論理を立て説明することができる。</li> <li>小・中学校における「平和教育教材」を作成することができる。</li> <li>作成した教材に基づいて、模擬授業を行うことができる。</li> </ol>		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて 欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各講義授業の内容理解確認レポート (5点×4回=20点) + 模擬授業作成課題 (10点×2回=20点) + プレゼンテーション課題 (40点、学生同士の評価により) + 最終レポート課題 (10点) + 出席などの 授業への取り組み態度 (10点) = 合計100点のうち60点以上を合格とする。但し、無断欠席が4回以上あ る場合は、不合格とする。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法 ) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	授業づくり以外の講義では予習復習課題として文献資料を読んだ後にLACS掲示板でのコメントを求 めることがある。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	授業時に資料や教材、参考文献などを提示する予定である。		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的 障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートにつ いては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい 。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ/Message for students			

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N )	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づ く教育内容 (実務経験のある教員による授業科 目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第 1 回	本授業のオリエンテーション (平和教育とは何か) (全)
第 2 回	本授業で目指す模擬授業の形について・議論 (グループ活動) (全)
第 3 回	核をめぐってせめぎあう世界 (講義) (高瀬) (全)
第 4 回	核をめぐってせめぎあう世界 (グループ活動と議論) (高瀬) (全)
第 5 回	核兵器のない世界を創造するためのアプローチ (講義) (桐谷) (全)
第 6 回	核兵器のない世界を創造するためのアプローチ (グループ活動と議論) (桐谷) (全)
第 7 回	沖縄での平和教育について (講義) (山口) (全)
第 8 回	沖縄での平和教育について (グループ活動と議論) (山口) (全)
第 9 回	講義から学んだことの整理と模擬授業設計・発表 (A-Dグループ) (全)
第 10 回	講義から学んだことの整理と模擬授業設計・発表 (E-Hグループ) (全)
第 11 回	模擬授業のための資料収集 (フィールドワーク) (全)
第 12 回	模擬授業のための資料収集 (フィールドワーク) (全)
第 13 回	模擬授業実施 (A?Cグループ) 後、授業評価 (全)
第 14 回	模擬授業実施 (D?Fグループ) 後、授業評価 (全)
第 15 回	模擬授業実施 (G?Hグループ) 後、授業評価 (全)

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2019/09/30 ~ 2019/11/21		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587042901	科目番号 / Course code	05870429
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 13761_005		
授業科目名 / Course title	核兵器廃絶へのアプローチ (核軍縮の法と政治) / Law and Politics of Nuclear Disarmament		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 福井 康人 / Fukui Yasuhito, 鈴木 達治郎 / Suzuki Tatsujiro		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 福井 康人 / Fukui Yasuhito		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	2年次生、多教経薬水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shirose nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター 2階		
担当教員TEL/Tel	内線 2204		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜4限もしくはアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	モジュール1で学んだ基礎的な科学技術の発展と社会的な影響およびその管理に関する知識と理解の上に、究極の技術ともいえる核兵器と原子力をめぐる国際政治と国際法の、より具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて考察することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができればよいと考えています。		
授業到達目標/Course goals	具体的な到達目標としては、?@核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を正確に理解する、?A核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、?B核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	出席および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%になります。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	授業に関する資料、条約、宣言等を指定しますので、それらをLACS上もしくはRECNAのデータベース等から取得し、予め目を通しておくことが前提となります。また、授業後には、それぞれの問題について、「自分が交渉担当者ならどう考えるか」という視点から復讐することを期待します。そのまとめが期末レポートになります。		
キーワード / Keywords	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法、被爆地ナガサキ		
教科書・教材・参考書 / Materials	テキスト：特に指定しません。 参考書：黒澤 満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂 黒澤 満 『核軍縮入門』 信山社 黒澤 満 『核軍縮と世界平和』 信山社 藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社 ウォード・ウィルソン 『核兵器をめぐる5つの神話』 法律文化社 上記以外に、RECNAのホームページ、特に「市民データベース」には核軍縮に関する主要な情報がまとめられているので、適宜参照してください。		

受講要件 (履修条件) / Prerequisites		
アクセシビリティ / Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) / Remarks (URL)	<a href="http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp">http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp</a>	
学生へのメッセージ / Message for students	講義の進度、講師のスケジュール等により、多少予定が変更になる場合があります。 授業の中だけでなく、教室の外でも核軍縮に関する情報やニュースの収集のような予習を各自が進めることを期待しています。積極的に問題意識を持って授業に臨むことを期待しています。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N) / Instructor(s) with practical experience (Y / N)	Y	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	広瀬 訓 / 1993年～1995年の2年半外務省に出向し、軍縮交渉に従事。軍縮条約の交渉、作成や再検討を担当 / 国際会議における実際の軍縮交渉について経験を踏まえて講義する他、軍縮交渉における各国の立場やその理論的背景等を実際に体験したエピソードを使って解説する。また、実際の紛争や国際問題を用いて、学生に交渉から条約の作成をシミュレートさせることも試みている。 /	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	1. はじめてに：授業の進め方（広瀬） ・ 「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・ パワーバランスとは何か ・ 「抑止」とは何か ・ 核兵器と安全保障	A
第2回	2. 「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」（広瀬） ・ 「軍縮」とは何か ・ 「軍備管理」とは何か ・ 「不拡散」とは何か	A
第3回	3. 核兵器の削減（広瀬） ・ 国際社会の取組 ・ 二国間の取組 ・ 地域的取組	A B
第4回	4. 核不拡散条約（NPT）：その1（広瀬） ・ 成立の背景と経過 ・ 内容と特徴	A
第5回	5. 核不拡散条約（NPT）：その2（広瀬） ・ 不拡散 ・ 核軍縮 ・ 原子力平和利用 ・ 現状と問題点	A D
第6回	6. 核不拡散条約（NPT）：その3（広瀬） ・ 1995年延長会議 ・ 再検討プロセス ・ 中東問題	A B D
第7回	7. 核実験の禁止（広瀬） ・ 部分的核実験禁止条約（PTBT） ・ 包括的核実験禁止条約（CTBT）	A
第8回	8. 非核兵器地帯（広瀬） ・ 非核兵器地帯とは何か ・ 世界の非核兵器地帯 ・ 北東アジア非核兵器地帯提案	A
第9回	9. 核軍縮交渉の現状と問題点（福井） ・ 安全保障と核軍縮：日本の姿勢	A D
第10回	10. 核軍縮交渉の現状と問題点（福井） ・ 日本は核軍縮に対しどうあるべきか	A B D
第11回	11. 新しい核軍縮の試み（広瀬） ・ 兵器用核分裂性物質生産禁止条約（カットオフ） ・ 核兵器不使用条約 ・ 核兵器禁止条約	A B D

第12回	12.核軍縮と国際人道法（広瀬） ・国際人道法とは何か ・核兵器は国際法違反か	A
第13回	13.核軍縮交渉の舞台（広瀬） ・ジュネーブ軍縮会議（CD） ・国連総会および第一委員会 ・国連軍縮特別総会（SSOD）	A B D
第14回	14.核軍縮交渉と世論（広瀬） ・核軍縮交渉と市民 ・私たちにできること	A B D
第15回	15.まとめ（広瀬）	A B C D
第16回	期末レポート提出	A C D

学期 / Semester	2019年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2019/09/30 ~ 2019/11/22		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20190587045101	科目番号 / Course code	05870451
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 13751_005		
授業科目名 / Course title	核兵器廃絶へのアプローチ (メディアと平和) / Journalism and the Path to Peace		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	森川 裕二 / Morikawa Yuji, 普久原 均 / Fukuhara Hitoshi, 山口 響 / Yamaguchi Hibiki, 小倉 利丸 / Saeki Toshimaru, 広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	森川 裕二 / Morikawa Yuji		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	森川 裕二 / Morikawa Yuji, 普久原 均 / Fukuhara Hitoshi, 山口 響 / Yamaguchi Hibiki, 小倉 利丸 / Saeki Toshimaru		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	1?4年		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	morikay nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟 1 1F 森川研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2904		
担当教員オフィスアワー/Office hours	面談を希望する学生は、メール事前予約をしてください		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	ジャーナリズムは、第二次大戦後の「世界の平和」についてどのような視点から報道してきたのか。国際社会の中での日本の立ち位置を、長崎の視点とも関連づけて、ジャーナリズムを通じて学びます。とくに冷戦後の世界と、3.11後に政治・経済各面の矛盾を浮き彫りにした核開発と原子力平和利用を分離してきたメディアの対応を批判的に議論し、平和を実現するためのジャーナリズムの役割と課題について考える。		
授業到達目標/Course goals	平和な世界を実現するためにジャーナリズムに何を期待すべきか。戦争と平和そして核についての報道を批判的に論じるための視点を養う。そのために、日本と世界の現状を歴史的に把握し、ジャーナリズムの果たしてきた役割と課題を理解する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course ( pick 1 to 3 )	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	論点ペーパー40% (各教員ごとに1000?2000文字)、最終レポート50% (2000文字) もしくは試験、 授業への取り組み姿勢 (討論の参加状況)。ペーパー、レポートは締め切り厳守。起承転結を明確 にすること。不要な記述は減点の対象とする。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法 ) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	授業の参考資料をLACSを通じて配布するほか、授業内での議論の準備をして臨む。事後学習として は、授業内容の理解を促すために、各担当教員の授業ごとに論点ペーパー (1000文字。講義の論点 の要約と敷衍、自分の意見) を提出する。締め切り厳守。		
キーワード/Keywords	冷戦後の世界、国際秩序、核政治、ジャーナリズム (主要メディアとオルタナティブなメディア)		
教科書・教材・参考書/Materials	参考図書: 藤原帰一『平和のリアリズム』岩波書店。『普天間移設 日米の深層』琉球新報「日米廻 り舞台」取材班 (青灯社)、『琉球新報が伝える 沖縄の「論理」と「肝心」』琉球新報社論説委員 会 (高文研)。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites	週平均2時間、授業外学習 (関連図書・資料のチェックなど) にあてること。日々の新聞・TVの国 際関係記事をチェックする習慣をつけること。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 。アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	事実関係の細部を把握すること以上に、事実関係の背後にある構造と考え方を探求することが大事です。そのためには歴史的な教訓を学ぶことは重要な方法です。新聞やTVの国際報道については、この授業期間中、こまめにチェックしてください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N )	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	普久原 均/長年の新聞記者として沖縄米軍基地の必要性や沖縄経済について携わってきた実務経験を有している。現在は琉球新報論説副委員長として活躍している。/本授業科目においては、ジャーナリズムを通じメディアの対応や世界平和実現に関する課題を取り扱う。報道関係からは琉球新報社の論説副委員長である本講師から、長年の新聞記者として沖縄米軍基地の必要性や沖縄経済について携わってきた実務経験を活かし、戦後の平和や沖縄の実態など様々な視点から研究をとおして学生たちに指導を行う。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回/10月4日	ジャーナリズムの役割 (総論、森川)
第2回/10月11日	権力とメディア (小倉)
第3回/10月18日	日米同盟の中の沖縄基地問題とメディア (普久原)
第4回/10月25日	国際社会とメディア (森川)
第5回/11月1日	原爆被災を記録・記憶すること (山口)
第6回/11月8日	ポスト・トゥルースメディア (山口)
第7回/11月15日	ジャーナリズムの課題 (森川)
第8回/11月22日	まとめ・討論